

## はじめに

集中治療と聞いてどんな印象をお持ちでしょう？

やたらと管が入っていて、いろんな薬が持続的に流れていて、あれこれと器械につながっていて、何が起きているのかよくわからないといったイメージでしょうか？

何を隠そう私は以前そうでした。集中治療を生業にする前に内科医として研修をしていたのですが、患者さんが重症化して集中治療室に入ると、何が起きているのか、何が行われているのか全体像をつかめないまま、上の先生に言われるとおりにバタバタと血液ガスを測りに走ったり、肺動脈カテーテルに冷水を注入したり（昔はこんな風に心拍出量を測定していたのです）して、モニターや人工呼吸器のアラームが鳴るたびにオロオロしていたのです。

医療に携わっている限り、重症化した患者さんの治療に関わらずにいることはできません。集中治療室で行うのだけが集中治療ではなく、救急室であっても病棟であっても外来であっても、重症の患者さんがいればそこで集中治療が始まります。重症疾患では治療の遅れがすなわち生命に影響しますので、集中治療を要するような重症患者さんを見極めて即座に治療を開始することは、どの医療者にも求められます。

本書では、集中治療を専門にしていない医療者を対象に、一般的な内科疾患が重症化したときの対応をまとめました。今回は中でも循環と呼吸をとり上げています。重症疾患では血圧が極端に低くなったり

高くなったり、心拍数や呼吸回数が極端に少なくなったり多くなったり、酸素飽和度が極端に低くなったりといった、派手な変化に目を奪われがちです。しかし、集中治療の中心になるのは、このような極端な状態を安定させつつも、同時に原因を検索して治療することで、あくまでも普通の診療と大きく違いはありません。

集中治療というと、体外循環であるとか血液浄化であるとかの特殊な治療が思い浮かぶかもしれませんが、しかし、そのような飛び道具的な治療が必要になる機会は多くはなく、集中治療において最も重要なのは病態を理解して基本に則った治療を行うことです。本書では、特殊な方法を用いることなく一般の医師でもできることを、根拠に基づいて説明しています。集中治療医が何を考えて（あるいはあまり考えずに？）診療を行っているか、集中治療医のアタマの中をご覧くださいければと思います。

これまで、なんとなく集中治療室に足を踏み入れるのは気が重いと感じていた控えめな方にも、重症であろうと治療の本筋を見失うことなく、自分で考えて動けるようになりたいという熱い思いをお持ちの方にも、楽しんで集中治療の基本を学んでもらえればうれしいです。

2016年1月

田中竜馬